

■殺菌剤：農業・芝・林業用

オキサゾール系

タチガレン[®]液剤

成分 ヒドロキシイソキサゾールカリウム塩……41.52%
(ヒドロキシイソキサゾールとして……30.0%)

物理的・化学的性状 黄褐色液体

登録番号：10332

毒性：—

消防法：—

有効年限：4年

包装：100ml×60 500ml×20

◆特長

- 稲苗立枯病に卓越した効果を示すほか、生育促進効果も認められ健苗の育成が期待できます。
- 植物体内のオーキシンとの共力作用により生理活性効果も示します。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	ヒドロキシ イソキサゾール を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進 ムレ苗防止	500～ 1,000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時及び 発芽後	2回 以内	土壌灌注	3回以内 (移植前の土壌 混和は1回以内、 移植前の土壌 灌注は2回以 内)
	ごま葉枯病	500倍		は種時	1回		
	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進 ムレ苗防止	1,000倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ	は種時及び 発芽後	2回 以内		
	ごま葉枯病			は種時	1回		
稲 (折衷苗代)	苗立枯病 (フザリウム菌)	500倍	1ℓ/m ²	は種直後 及び 発芽後	2回 以内		
稲 (畑苗代)	苗立枯病 (ピシウム菌)	1,000倍	3ℓ/m ²	は種直後	1回		
	根の生育促進 移植時の発根及び 活着促進						

作物名	適用病害虫名 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	ヒドロキシ イソキサゾール を含む農薬の 総使用回数
キャベツ	ピシウム腐敗病	1,000倍	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約3.0~4.0ℓ) 当り0.5ℓ	出芽時~ 育苗期	3回 以内	土壌灌注	3回以内
レタス	パーティシリウム萎凋病		250ml/株	定植時		株元灌注	1回
すいか	苗立枯病	500~ 1,000倍		は種直後	1回	苗床灌注	2回以内 (育苗土壌への 混和は1回以内、 苗床への灌注は 1回以内)
きゅうり	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌)		3ℓ/m ²		3回 以内	土壌灌注	3回以内
メロン	苗立枯病 (ピシウム菌)	500倍				全面土壌灌注	
ほうれんそう	立枯病	500~ 1,000倍	9ℓ/m ²	は種時	1回	土壌灌注	1回
		1,500~ 3,000倍					
		50~ 100倍	300ml/m ²	は種前	全面散布後 土壌混和		
オクラ	苗立枯病 (ピシウム菌)	500~ 1,000倍	50~200ml/株	は種時~ 発芽初期	2回 以内	植穴又は 株元灌注	2回以内
さやいんげん	白絹病	500倍	1ℓ/m ²	収穫14日前 まで		土壌灌注	
さやえんどう	根腐病	500~ 1,000倍	3ℓ/m ²	は種後及び 生育期 但し、は種後 1~2か月後まで	3回 以内	は種穴又は 株元に 土壌灌注	3回以内
実えんどう	立枯病						
未成熟そらまめ	立枯病	500倍	200ml/株	は種後及び 生育期 但し、 収穫30日前 まで		は種穴又は 株元に 土壌灌注	

作物名	適用病害虫名 使用目的	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	ヒドロキシ イソキサゾール を含む農薬の 総使用回数
てんさい	苗立枯病	500～ 1,000倍	ペーパーポット 1冊当り1ℓ	は種時～ 生育初期 但し、 収穫120日前 まで	3回 以内	灌注	5回以内 (種子粉衣は1回 以内、育苗土壌 への混和は1回 以内、灌注は3回 以内)
			3ℓ/㎡				
みずな みぶな	立枯病	500倍 1,000倍	3ℓ/㎡	は種時	1回	土壌灌注	1回
みつば	根腐病	2,000倍					
いちご	苗の発根促進 活着促進	1,000倍	—	挿し芽 採取時	1回	30分間 挿し芽浸漬	2回以内 (挿し芽採取 時の浸漬処理 は1回以内、 挿し芽時の土 壌灌注は1回 以内)
			1.5ℓ/育苗 培養土5ℓ	挿し芽時		土壌灌注	
たばこ	舞病		100ml/株	移植時及び 大土寄せ時	2回 以内	株元灌注	2回以内
カーネーション	立枯病	500倍	3ℓ/㎡	定植時及び 活着後	3回 以内	土壌灌注	3回以内
アイリス	白絹病	1,000～ 2,000倍		定植時及び 生育期	6回 以内		6回以内
きく	発根促進	1,000倍	5～10ℓ/㎡	挿し芽直後	1回	苗床全面灌注	1回
林木(苗木)	立枯病	500～ 1,000倍	3ℓ/㎡	は種覆土 直後			
西洋芝 (ペントグラス)	赤焼病	250～ 500倍	2ℓ/㎡	発病初期	4回 以内	散布	6回以内
	ピシウム病		0.5/㎡				

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
- 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
 - 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注すること。
 - ムシ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムシ苗(生理的な急性萎凋障害)に対して有効であるので、このようなムシ苗の発生する地域で使用

すること。

- (3) 本剤をキャベツに使用する場合は、使用液量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用液量、濃度を必ず守ること。
- (4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壌に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。
- (5) 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を1㎡当り3ℓの割合でジョロなどで均一に土壌灌注すること。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なうこと。
- (6) アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を1㎡当り3ℓの割合でジョロなどで均一に土壌灌注し、その後20～30日間隔で1～2回灌注処理すること。
- (7) さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合、発生後の灌注は効果がないので、予防的に播種後1週間以内に所定希釈液を1㎡当り3ℓ灌注し、更に1～2か月後にかけて1～2回株元灌注処理すること。
- (8) 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (10) 稲に使用する場合、リゾトニア菌には効果が劣る傾向があるので、このような菌による発病地帯での使用はさけること。

◆安全使用上の注意

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

この登録に係る使用方法では該当がない。